

コンサルタントの現場から

(株)ジェムコ日本経営 高橋 功吉

「コンサルタントの現場から」のコラムは、コンサルタントがコンサルティング等の現場で見聞きしたことの中から、参考になるのではないかと四方山話を綴ったものです。

第244回 ゼロゼロ作戦

今回のタイトルは、ある企業で掲示されている掲示物のタイトルだ。掲示内容は図のようなものだ。

皆さんは、これを見てどう思われるだろうか。

この企業の名前は伏せて、この掲示物をどう思うかと色々な方にお聞きしたところ、実に多様な意見が出た。今回は、その内容を少し紹介したいと思う。

わかりやすい

まず、この掲示内容を評価された方の意見としては、生産管理の3要素である品質(Q)、コスト(C)、納期(D)に、安全(Safety)を加えたQCDSについて記載されており、これが「不良ゼロ、ムダゼロ、遅れゼロ、ケガゼロ」とわかりやすく表現されていてよいのではないかという意見だ。生産現場が意識すべき生産管理の3要素と現場が気を付けるべき安全について、確かにわかりやすく記載されている。

具体的に示すべき

ところが、この表現に対してこれでいいのと言う人もある。例えば、ゼロゼロと表現するのであれば、故障ゼロ、在庫ゼロ、切り替えロスゼロ、クレームゼロ、赤字ゼロなど、もっと具体

ゼロゼロ作戦

品質の向上をはかり、**不良ゼロ**を！
コストダウンを合言葉に、**ムダゼロ**を！
納期を守って、**遅れゼロ**を！
安全第一で、**ケガゼロ**を！

的に記すべきだというような意見だ。経営数字にどう結びつかという視点で言うと、この方が経営数字に直結している。実際、多くの現場では、これらを日々管理しているし、具体的な目標も設定して取り組んでいる。可動率(べきどうりつ)を上げるために故障ゼロを目指してオイルの滲みも気付けるように清掃を徹底したり予防保全に取り組んだり、また在庫無しの溜めないものづくりへの変革取り組みはキャッシュフローに直結する。瞬時に切り替えができれば在庫は必要なくなるし、稼働率があげられることでムダな投資を抑制でき、投資した設備をフルに動かすことでより多くのキャッシュを生み出すことができる。これらの取り組みは経営計画数字の裏付けとなる取り組みと言える。具体的な取り組み視点に落とし込んで目標設定することは有効と言える。

順番はこれでよいの？

また、QCDSの順番について、これでよいのかという意見もある。何があっても、第一は安全だ。品質第一、安全第一のように第一が2つあっては、絶対に安全優先にならない。安全が第一であり、品質が第二、お客様視点では納期が第三であり、これを踏まえると、SQDCという順番が正しいのではないかと

【第8面に続く】

<執筆者プロフィール>



高橋 功吉 (たかはし こうきち)

(株)ジェムコ日本経営 / 常務理事 グローバル事業担当

大手家電メーカーにて、海外経営責任者などの要職を歴任後、ジェムコ日本経営に入社。2007年執行役員、2011年取締役、2015年6月より現職。上場企業経営トップおよびボードメンバーへの顧問型経営支援をはじめ、グローバル戦略の構築から、製造現場の現場力向上、品質革新など、経営全般にわたり幅広く活躍している。実践に裏打ちされた「わかりやすい」コンサルティングが身上。「ものづくり経営入門」(日経BP)他、雑誌や媒体への執筆、講演も多い。

主な資格は、ICMCI(国際公認経営コンサルティング協会)認定コンサルタント、公益社団法人全日本能率連盟認定マスターマネジメントコンサルタント、経済産業大臣登録中小企業診断士

防災設備の点検はきちんとできていますか？



- ☐ 適切なメンテナンスなき設備は火災時に機能しないことも有。
- ☐ 法整備や建物の増床等で現状は基準に満たなくなっているケースも。

火災報知器、消火設備すべて纏めて診断、見積、是正工事実施いたしますので担当者様の負担減にもなります。

【各機器の交換時期の目安】



きちんとメンテナンスを行わないと耐用年数未満での故障も増加。また、設置位置の誤りや不適切なセンサーが使用されている場合もございます。

警備コストのムダを見直しませんか？



- ☐ 人による警備をシステムに置き換えることで経費削減。
- ☐ システム活用によりヒューマンエラーが起こらないメリット有。

導入コストは、リースにすることにより、実質負担ゼロからのご提案も可能となります。

タイ王国でも日本と同様にお客様の「安心・安全」をお届けするのをモットーとしております**ALSOK Thai Security Service Co., Ltd.**がサービスを提供いたします。お客様ごとに確かな経験を活かし、適切な防犯、防災プランをご提案いたします。

ALSOKホームページ
「ALSOK Thai Security Service Co., Ltd.」
<https://www.alsok.co.th/>
「総合警備保障株式会社(ALSOK)」
<https://www.alsok.co.jp/>



お問い合わせ先

Bangkok Shuho International Co., Ltd.

Charn Issara Tower 1st Fl., 942 / 43 Rama 4 Rd., Suriyawongse, Bangrak, Bangkok 10500

Tel: 02-632-9179 Mobile: 063-474-2358

E-mail: info@bangkokshuho.com 担当: 臼井・高井

【第7面から続く】

いう意見だ。優先する順番を明確に示すということからはもっともな意見だ。

目的は何かで掲示内容は変わる

さて、今回は一つの掲示物を例に色々な意見のあることを紹介した。大切なことは、目的は何かによって掲示するものも違っ

てくるということだ。漫然とスローガンを掲示しても飾りにしかならない。誰も見ないような掲示物は不要だ。また、絶対に守るべきことは、徹底した教育が必要で、掲示しておけばよいということにはならない。最大の経営資源は人であり、世の中から預かった大切な人材にケガをさせるようなことはあってはならないので、安全が一番であることは他の何よりも優先する。それらを踏まえて、取り組むべき視点を明確に示したいものだ。

パーツの相場見通し

Dealer's insight

井上 由貴

みずほ銀行

リスクオフムードを背景にドルパーツは急伸

1月22日のドルパーツは30.40近辺で取引を開始した。商務省が公表した12月貿易統計では、輸出が前年同月比マイナス1.28%、輸入は前年比2.54%となり、前月対比で良化する結果となると、ややパーツ高の反応となり、30.30台半ば近辺まで下落。しかし新型コロナウイルス感染拡大への懸念が続く中、更なるパーツ高進行とはならず、ドルパーツは30.30台後半でレンジ推移となった。タイ中央銀行より「経済成長とインフレ率のサポートのため、金融政策は当面緩和的とすべき」とのコメントが伝わるも、反応は限定的だった。

23日以降、新型コロナウイルスの感染拡大懸念を背景としたリスクオフムードが拡がり、アジア通貨は全般的に売り優勢の展開。春節で中国人観光客の増加が見込まれたこともリスクオフムードを後押しした。

28日にはタイ保健省が新型コロナウイルスの感染者が14人

に急増したと公表。ドルパーツは続伸し、29日には一時昨年7月以来となる31.00の高値をつけた。

ドルパーツはもう一段の上昇を想定

新型コロナウイルスの感染拡大懸念を背景に、市場はリスクオフムードが加速している。特にタイに関しては、中国国外で感染者が確認された最初の国、かつ、中国以外では最も多い感染者数が報告されている（本稿執筆時点、14人）国でもあることから、アジア通貨の中でもタイパーツの下落は群を抜いている。22～29日の1週間で対ドルで2%の下落を見せており、ついに31.00の大台もタッチした。感染拡大に加え、外国人観光客の3分の1を占める中国人観光客の減少が見込まれ、当局は今年の中国からの訪問者が前年比18%減少するとの予想を示している。観光収入の減少がタイ経済に打撃を与える可能性は非常に高く、GDP成長率にして最大1%押し下げられるとの試算もある。パーツ安はタイ中銀や国内の輸出企業にとって歓迎すべき事態だが、要因が要因だけに、タイ経済全体を冷え込ませる恐れがあり、状況を注視したい。更なる感染拡大が確認されれば、もう一段のパーツ安の展開を想定しておきたい。

(1月29日20:45)

太陽光発電設備を10年間レンタルし その後は設備を譲渡します^(※)

※レンタル期間終了後にお客様に購入選択権有。ご購入価格についてはお問合せください。

—— もちろん初期投資も一切不要 ——

自社工場の屋根で電気を自家発電しませんか？

- ☑ 太陽光発電設備を約10年間(10年～13年)、取り付け費やメンテナンス費込みで提供するエスコ方式です。
- ☑ 毎月の費用は、下がった電気代の中から10年間いただくだけです。



これまでのタイ国内の実績(お取り付け企業様)やご提案書につきましては、下記までお問い合わせください。
BOI恩典を使用したご購入についても、BOI専門のコンサルタントがご相談をお受けいたします

バンコク週報コンサルティング事業部

E-mail: info@bangkokshuho.com

TEL: 02-632-9179

担当 臼井(うすい)、高井(たかい)、ティティパンまで

WEST GROUP
WEST International(Thailand)Co.,Ltd.